

議員報告書

1 議員名	玉井直子
2 期日	28年12月3日～28年12月9日
3 研修先等	三次市君田町泉吉田 君田温泉 森の泉
4 内容(目的)	中山間地域の諸課題解決セミナー
5 報告事項	<p>中山間地域の諸課題解決セミナーを受講。</p> <p>1部 講演会 13:30～基調講演「縮小時代における地域の方向性」 田口太郎 徳島大学総合科学部准教授の講演を聞く。 住民主体と市民主体 居住を前提とする「住民」と地域に関する「市民」 道路交通網の発達した現代において住民と市民はことなっている。 多様な担い手を前提としてまちづくりを考える。 地域内外の様々な主体の連携をどのように育むのか、機能する連携相手と どのように見つけるのか、様々な連携の中で地域が戦略をもつ必要がある。 自治の衰退とはなにか、団体自治と住民自治双方の衰退、財政健全化に向けた 行政職員の減少、行政サービスの減少、過疎高齢化による住民自治の限界。 「消滅自治体」問題、人口減少下のまちづくりにおける価値軸、過疎化とまちづくり 戦略的な地域自治戦略、地域の主体性「自律性」とはなにか、地域への 支援とはなにか、地域を「住み継ぐ」方向性、担い手の不足をどう捉えるか、UIターン、 「移住政策」とはどうあるべきか、「おひ移住者」とはなにか、地域の状況に合わせた 移住プロセス、移住コーディネーターに求められる役割、地域が「考える必要がある事項等」 地方創生で様々な取り組みが行われているが、重要なのは、地域目線で主体性を もった取り組みをしていくことが必要であること、市民のネットワークをほぐし、結果ではなくて そのためのプロセスが大事であることなど、大変考えさせられる内容のセミナーでした。</p> <p>2部 事例発表「庄原市高野町「道の駅たかの、オープン準備と開業」 ・「地域住民の果たした役割」瀬尾二大高野地域づくり未来塾塾長</p>

議員報告書

1 議員名

2 期 日

年 月 日 ~ 年 月 日

3 研修先等

4 内容(目的)

5 報告事項

- ・「行政の役割」=ランドデザインを描く(糸原秀晴庄原市役所商工観光課にヨロい観光係係長)
 - ・「ソトモ/目録」植上理恵(道の駅たかの観光コンシェルジュ)元地域おし協力隊
 - ・「道の駅たかの、開業から4年目を迎えて」根波裕治(道の駅たかの駅長)(株)緑の村代表取締役
- 道の駅をオープンさせるまでの話をそれぞれの分野から聞かせてもらい、地域の行政の職員さんの努力はほんとうにすごいものだったことを感じました。
- 専門家のノウハウを活用して市民の声を最大限活かす、ランドデザインを描き、施設づくりに動かれ、今の道の駅がつく~~ら~~れた。とても身になる内容でした。
- これからが正念場であると言われていました。おもてなしを続けるために、どうしたらいいか、たえず考えていく必要があります。

(別紙様式2 ②)

議 員 報 告 書	
1 議 員 名	前 重 昌 敬
2 期 日	平成28年12月3日
3 研 修 先 等	君田温泉 森の泉 〒780-0405 広島県三次市君田町泉吉田 311-3
4 内 容 (目的)	第2回中山間地域の諸課題 解決セミナー
5 報 告 事 項	
〔1日目〕 13:30～15:00 基調講演	
「縮小時代における地域の方向性」	
徳島大学総合科学部 准教授 田口太郎 氏	
15:15～17:15 事例発表 庄原市高野町「道の駅たかの」オープン準備と 開業	
①「地域住民の果たした役割」高野地域づくり未来塾 塾長 瀬尾二六 氏	
②「行政の役割＝ランドデザインを描く」 庄原市商工観光課 にぎわい観光係 係長 糸原秀晴 氏	
③「ソトモノ目線」道の駅たかの観光コンシェルジュ・地域おこし協力隊 壇上理恵 氏	
④「道の駅たかの、開業から4年目を迎えて」道の駅 駅長 根波裕治 氏	
〔所感〕	
1. 縮小時代における地域の方向性は、地域づくりで思考する必要がある6事項で、	
①地域が幸せになる価値軸を考える	
②地域のビジョンを考える	
③地域にあった時間軸を考える	
④地域が幸せになるプロセスを考える	
⑤連携のカタチを考える	

⑥地域の動きを下支えする戦略／計画／支援

以上の事から、安芸高田市の地域にあった地域づくりを上記内容により取り組んで行かれるよう提言していきたい。

2.「道の駅たかの」については、今後安芸高田市に予定されている、仮称道の駅あきたかた設置に向け、今回の研修は大変参考になった。

- 早い（4年前）段階から、担当者を配置し、運営の核となる「高野地域づくり未来塾」への協力等、一体となった形の中で活発な意見交換、協議。
- 設置に向けて、地域住民の役割が重要視されてきた。
- 地域おこし協力隊の位置付け。活動期間後、コンシェルジュとして道の駅にて活躍中である。
- オープンまでに、地元高野町民等へ活動内容周知への「」サポーター通信」発行以上、様々な方々が協議による会議を重ね、今日に至っておりまた、これからも如何に情報発信、常に課題解決に向けて協議を重ね、地域目線、集落目線になり取り組みの主体性を醸成していくことが必要。